

各森林管理局国有林材供給調整検討委員会実施状況

平成26年1月15日現在

局	回数	意見概要	供給調整の 必要性の有無
北海道	第1回 H25.7.23	- 供給時期の調整には、請負事業体の協力、作業員の雇用問題、予定事業量の確保、追加事業の予算確保などの問題を整理することが必要。 - 木材供給及び価格の安定化の観点からもシステム販売の数量確保が重要。 - 外材と道産材の需要量の差は価格差と考えられ、特に輸送コストが大きく影響。そのためにも、システム販売の直送方式の定着化が必要。 - 今後、生産量の中核となるトドマツの製品開発を進めることが必要。	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H25.10.3	- 夏場の天候不順もあり原木が十分出ていない中、帯広地区では加工工場も増えたため原木の不足感があり年度内は続くと思われる。このため、国有林材が臨機応変に市場に出てくることを期待。 - 民有林も原料材の需要不振に困っており、木質バイオマス燃料の需要に期待しているものの、具体的には来年度以降。 - 道産材の供給量は今後増加するため、トドマツ、カラマツの付加価値の向上とA～D材が全て需要につながる必要がある。	現時点で供給調整必要なし
東北	第1回 H25.7.23	- 復興需要は感じられない。震災で沿岸部は被災したが山側はほとんど影響はなく、材は供給過剰。合板やチップでは受け入れ調整もあり、以前より買い手市場。 - 国産材も伸びてきているが油断するとまた減少する恐れ。 - 国有林には安定供給を期待。供給調整はよほど重大な事態が生じた場合のみとすべき。 - ここ数年、市場売りの取扱量は減少し、工場直送が増加。	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H25.11.28	- 合板材以外のすべての品目で丸太の供給が注文に追いついていない。スギ3.65m、24～28cmの引き合いが強い。入札では中目材が15,000円/m3を超える価格で取引。 - 県森連として原木不足による製材用原木価格の上昇を受け、系統も含め生産量を増やすよう指示。 - 各合板工場・製材工場から原木の注文があるが、8割程度しか応えられていない。事業体では、海岸地域で高台移転等の復興関連作業に人がとられ、トラックも不足していることが要因。 - 今年度は年明け1月が需要のピークで、それ以降は落ち着くと考えている。	現時点で供給調整必要なし(ただし、現在の一般材製材用原木不足・高騰の状況に対応して、一般材比率が高まるような採材を推進する。なお、価格上昇があまり見られないスギ合板用材等については、販路の拡大を検討する。)

局	回数	意見概要	供給調整の 必要性の有無
関東	第1回 H25.8.8	・ 供給調整には立木での在庫調整が有効。具体的には、立木販売箇所の搬出期間を長く設定することや、搬出期間の延長により、素材供給の調整を期待。 ・ 間伐の素材生産請負事業は、搬出間伐と伐捨間伐を組み合わせた事業発注を増やし、作業の変更により出材の調整が可能とすることが必要。 ・ 民有林・国有林とも入荷は順調。補助制度の変更もあり、今後も例年どおりかそれ以上の出材が予想されるところ。 ・ 住宅需要は、消費税増税前の駆け込み等もあり、年度内は好調と見られるが、増税後の着工戸数減を危惧。	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H25.11.15	・ 福島、北関東における原木の出材状況はほぼ平年並み。材の取引が早く、土場に在庫がないこと、原木の不足、価格の上昇がみられていることから、需要が増えているのは確実。 ・ 素材生産業者は民有林の事業で手一杯の状況。 ・ 原木価格は9月以降全面高にあり、今後の需要、出材量を考慮すると11月がピークとの見方も。輸入材の在庫等の影響から、一部樹材種においては先安感も出ている。 ・ 現在の間伐中心の施業では生産量に限界。今後は再造林費や獣害対策も考慮した上で、うまく皆伐を組み合わせ、生産性の向上、コスト削減を図ることが課題。 ・ 民有林では施業集約化等補助事業による出材が進み、生産量が増加傾向にあるが、出材された材の内容にも変化があり、製材用材(いわゆるA材)の割合が減っているのではないか。	現時点で供給調整必要なし
中部	第1回 H25.7.29	・ 昨年の木材価格下落の原因は供給過多によるものではなく、「虫」による影響が大。 ・ 年度をまたぐ時期の雇用バランスを確保することが肝要。 ・ 供給調整については、価格だけでなく、入荷量や販売量、在庫量等もしっかりと勘案し判断すべき。 ・ 山の仕事は民国で請負事業体の違いはない。労務状況等についても今後検討対象とすべき。	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H25.11.6	・ 大規模な製材工場・プレカット工場であるA社では、8月末時点で原木の在庫量が適正在庫の70～80%となってしまった。とにかく物が無い状況である。このままではせっかく国産材へシフトしてきたのに外材へ頼らなければならない状況も生まれてくる。タイミングとして非常に難しい時期である。 ・ カラマツ18cm上の出材が少ない現状の中、合板会社は16cm下の価格を500円下げると言ってきた。	現時点で供給調整必要なし

局	回数	意見概要	供給調整の 必要性の有無
近畿中国	第1回 H25.10.17	・ 住宅着工戸数の増加によりプレカット工場、合板工場の消費が多く、原木が不足気味であり、スギ、ヒノキとも価格が上昇している。 ・ 外材との競合から乾燥材を増やす必要があるが、乾燥設備が不足しており、国産材の乾燥材は3割程度と追いついていない。 ・ 素材生産量は増加しているものの、請負事業体に余裕が無く手一杯の状態。 ・ 近中局国有林材の市場シェアが小さいことから、供給調整の立ち位置は難しいところだが、方向性を示すことは重要でありメッセージ性は強い。	現時点で供給調整必要なし
	H25.12中旬	・ 素材生産量は、管内全般として増えている状況にあるが、滋賀、京都等、台風の影響で出材が減少している地域も見られる。 ・ 現在でも素材生産を行う事業体は不足している状況にあり、今後、木質バイオマス関係への需要の増加を考慮すれば、事業体の早期の育成が必要である。 ・ 立木販売であれば、搬出期間が長いことから、期間内での需給動向に応じた柔軟な丸太生産が可能となる。 ・ ヒノキ土台角が入手できないので、米ツガ注入材に戻る動きがある。	新年の早い段階での素材生産に努める。 需給動向に柔軟な対応が可能な立木販売に努める。 ↓ 今後の生産・供給情報をHPで公表
四国	第1回 H25.9.2	・ 入札方式の販売では、需要と供給のバランスが価格を左右することとなり、価格変動が生じるのは当然である。価格を安定させるための販売方式の検討が必要。 ・ 大規模製材工場、バイオマス発電の稼働に伴う素材の安定供給が必要。 ・ ヒノキ材は県産材がなく素材・製品とも他県より入荷。	現時点で供給調整必要なし
九州	第1回 H25.8.7	・ 民有林では、森林所有者や企業による供給調整は困難。国有林が供給調整に取り組んでほしい。 ・ 国有林の素材供給のシェアは小さいが、実際の影響は大。 ・ 平成17年度から取り組んだシステム販売はメリットがあり、大きなパイプ。 ・ 製材品は乾燥材を大手メーカーに出しており、フル生産している状況。原木価格は上がっており、年内は値が上がると思われるところ。	現時点で供給調整必要なし
	第2回 H25.11.13	・ 原木が不足しており、丸太価格はヒノキ、スギとも急騰。 ・ 国産材が量、価格で安定供給できないと、外材へシフトし、シェアを失うことが懸念。 ・ 国有林材の供給量を増やすことにより、材余り、価格が下がる恐れ。 ・ 国有林材の供給調整がどのように影響するか、よく考えるべき。1つの方法として立木販売が上げられる。	木材の需要動向等を勘案し、安定的な素材生産に努めるとともに、立木販売による供給を検討することが必要。 ↓ 立木販売の前倒しを指示。